



編集・発行 山見乃妙勢能報部
〒563-0132 大阪府豊能郡野間中
電話 072-739-0329
FAX 072-739-2883

天賦の才

倉橋 観隆

「天賦の才」という言葉があります。天が与えたかと思うような生まれながらに備わった優れた才能のことです。

学生時代、勉強は学年トップ、スポーツ万能、更にイケメン。そんな友人がいました。私は憧れと同時に強い嫉妬心を持っていました。皆さんもそんな経験ありませんか。

この羨望嫉妬の心は常に私の心を苦しめ続けていたのです。そんな思いに対して「人は優劣ではない。みんなちがってみんないいのだ」と言われるかもしれない。勿論そうでしょう。

しかし、一方こんな見方もあります。

日蓮大聖人のこんなお言葉に出会いました。「過去の因を知らんと欲せば、その現在の果を見よ。未来の果を知らんと欲せばその現在の因を見よ」と。

それはすなわち、自分の今の姿はたまたまではないんだよ。過去世での行為の結果が今世の姿に現れ、今の行為の結果が来世の姿になるのだよ、という意味なのです。

言い換えれば、私たちの命、あるいは魂という表現を使えば、肉体は無くなったとしてもそれは過去世、今世、来世と三世に亘って繰り返して生まれ変わり、その間の努力に応じて成長するので

す。そして、その成長の結果こそが今世生まれながらに備わった「才」と考えられるのです。

とするならば自分の才能の無さを嘆く前に今から努力を始めれば良いのです。たとえ今世その成果が出なくとも、必ず次の世で天賦の才として現れて来るのです。これも法華経の説く「平等」の一面ではないかと思えます。

こう受け取ると私の苦しみも少し和らぎます。今の自分を卑下し人を妬むのではなく、今の一步は必ずいつかは実る一步だと信じて努力を続けようではありませんか。これも大聖人からのエールだと受け取って：棺桶の蓋が閉まるまですべて修行なのです。くじけそうになったらお題目を杖に精進しましょう。

《法華経に学ぶ現代》

〜純智庵〜

大法を求むるを

友よ持つべし大志をば

もつての故に

たとえ総理になろうとも

世の国王と

まずはしっかりと眼を開き

作れりと雖も

素直に耳を傾けて

五欲の楽を

臭い物には蓋をせず

貪らざりき

二枚舌など使わずに

『提婆達多品第十二』

【11月の主な行事】

- ☆七五三詣祈禱 1日〜30日
- ◎お子様の成長を祈って七五三詣りご祈禱を11月中執り行っております。
- ※祈禱札と記念品を授与 御祈禱料三五〇〇円
- ☆宗祖日蓮聖人御会式法要 11日(土)〜12日(日)

- ※法要に参加された方にはお会式桜とおはぎの供養があります
- ★写経会 12日(日)11時
- ★月例祈願法要 15日(水)13時
- ★星嶺茶論 19日(日)13時
- ★鷗様月例祭 22日(水)15時
- ★妙見山660コンサート 26日(日)13時半

尺八と朗読コンサート ※星嶺演奏会に代えます

【12月の行事予定】

- ★写経会 10日(日)11時
- 初心者の方もどうぞ！
- ★月例祈願法要 15日(金)13時
- ★妙見さまの御縁日祈願会 15日(金)13時
- ★鷗様月例祭 22日(金)15時
- ★火伏守札を授与
- *12月から2月までの星嶺茶論はお休みします
- 《交通のご案内》
- ◆ケーブル&リフト毎日運行中
- ◎新年歳始祈禱のお申込みの受付を開始致しました。

蔵を整理していたら先代の原稿が出てきたので、今月は先代日法上人の原稿をご紹介します。

「まずは他に笑顔を」

日法

日蓮聖人は「上野殿御返事」に「花は開いて果となり、月は出でて必ず満ち、燈は油をさせば光を増し、草木は雨ふればさかふ、人は善根をなせば必ず榮ふ」とお教え下さっている。

即ち、私たちが光を増すような人生を送るには善根を尽くさねばならぬ、とおっしゃっておられるのである。

善根を尽くすためには、まずは自分自身が周囲の人々や周囲の色々なもの、またご先祖様によって支えられ生かされていることに気づかないと、なかなか善根を尽くすことはできない。

その上で、自分自身を幸福にしたかったならば、まず自分から先に他に対して笑顔を向けよ、親切をつくせと言われているのではなからうか。

例えば、タライに張った水を自分の方へ引き寄せようとするには、まず水を向こうへ押しやることだ。押しやれば水は必ずこちらへ来るものである。それと同じことである。

一本の木が立っている。それは私たちの目には見えないが、根があるから立っている。大きな樹になればなるほど、その根は大きく大きく長く、地下に張っているものなのである。これは一本の草にしても同じである。

一本の草や、一本の木にしても私たちの目に見える地上にあるだけのものではない。立っていることさえできないであろう。土があり、根があることによって、根か

山が色づく季節が巡ってきた。整えられた庭の紅葉も良いが、里山の色とりどりの美しさも捨てがたい。

ところで、里山は自然にできたものではなく、人間が炭や薪を採るために人工的に作った森だ。人工的と聞くと自然の対極にあるようにだが、意外な事に自

☆☆☆☆星のたより☆☆☆☆

然の森より多くの生き物が住んでいる。人が手を入れることで、より多くの生き物が共生できているのだ。

仏教は人の価値は生まれではなく、何を為したかで決まると考える。自分だけでなく、里山のようにみんなが幸せになるように生きてゆきたい。

U.K

俳壇

（みのり）

尺八の流るる山莊月青し

石路黄なり庭の奥なる屋敷神

手をつなぐ山の鉄塔うすもみじ

久久の便り木犀封じやる

蟪蛄の斧に幼の後退り

暦のあれこれ

暦と人々(三)

平安時代、暦は選日の吉凶を中心に利用され、人々はそれに縛られていた事を前回述べました。

そしてその当時、暦の吉凶を占っていた有名人といえば、安倍晴明です。古来から現在に至るまで、特異な能力で怪異を鎮めるスターとして語り継がれています。ところで、小説や映画ではなく、実在の安倍晴明はどうだったのでしょうか。

安倍晴明は天文、氣象、暦等を扱う陰陽寮という役所に勤めていました。晴明はこううち暦の吉凶を占う仕事をしており、様々な禁忌のある凶の日を恐れる当時の貴族達の為の助言をしていました。暦の吉凶に縛られていた貴族達からは本当に頼りにされた事でしょう。陰陽道にも精通していた晴明は崇められ、次第に伝説的な存在となり祀られるようになったのです。